

## シルバー世代の衣服について 第2報 消費者の意識調査

金谷喜子\* ○東谷市子\* 都築昌子\* 伊地知美知子\*\*

(\*大妻女大短大 \*\*文教大)

**目的** 最近の健康な中高齢者は、社会の変動に対して敏感に反応し、ライフスタイルも大きく変化している。特に、生涯学習やボランティア活動等も盛んであり、趣味も幅広く、ファッションに対しても関心は高い。しかし、未だ市場は若者中心であり、中高齢者が望む衣料品は求めにくい状態である。そこで、やがて訪れる超高齢社会における中高齢者の衣生活改善の基本資料とするために、前報に引き続き消費者意識を探ることとした。

**方法** 調査は、40才以上の男女中高齢者を対象に衣生活の実態とその意識調査を行った。主として、大学・短期大学在学生の家族や親戚及び知人等に依頼した。時期は1996年1月と7月の2回で、内容は冬期・夏期の衣服についてである。質問項目は、日常着・晴着・寝衣等のデザインや色彩及び素材等を、年代別・性別等により比較検討した。

**結果** 調査対象者の居住形態は、二世帯同居が60%内外と多く、次いで三世帯同居、夫婦のみ、独居という順であった。趣味については約85%の者が持っていると答え、生活を楽しんでいるものと思われる。日常着は、男女とも洋服が定着しており、女性のボトムはパンツやジーパン等ズボン形式の利用が70%で、スカートの利用は少ない。トップは、男女共各世代でTシャツを気軽に着用しているが、70代以上では、下着という固定観念をめぐり去ることは難しいようである。既製服は、豊富な完成品の中から自由に選び入手できる気軽さが多くの利用につながっている。ファッションについての関心は比較的高く、トータルコーディネートが考慮されているという結果であった。